

## 第14回 千葉県食育推進県民協議会 会議要旨

1 日時 平成28年9月5日(月) 午前10時～12時

2 場所 県庁中庁舎10階 大会議室

3 出席者 構成員15名

### 4 結果概要

#### (1) 開会

#### (2) あいさつ

伊東農林水産部長からあいさつ

#### (3) 議題

##### ① 本年度の食育の取組について

資料1により安全農業推進課から説明

《①に関する質疑応答なし》

##### ② 第3次千葉県食育推進計画の策定スケジュールについて

##### ③ 第3次千葉県食育推進計画(案)について

資料2, 3, 4, 5により安全農業推進課から説明

《②③に関する意見交換の概要》

#### (明石座長)

・平成29年度から5か年計画期間とする、第3次計画の具体的な内容が説明された。数値目標も明示されて議論しやすいかと思う。自由な立場でフリートーキングをお願いしたい。

#### (岡村氏)

・国の食育基本法があって、それが下りてくるのは分かるが、先ほどの目標値は国に合わせたものが結構多い。このように合わせなくてはいけないのか。それとも、朝食欠食の県民の割合は、今29%のところを15%以下というのはなかなか難しいと思う。独自の千葉の目標値を設定しないのか。そこがよくわからないので、教えてほしい。

#### (事務局)

・目標値について国と揃えないといけない、ということはない。ただ、非常に高い目標ではあるが、国の現状値と大きく差は無いことから、国の目標と合わせた方がいいという案である。千葉県だけ低い目標をなかなか設定しにくい。

#### (岡村氏)

・民間企業は、目標値を絵に描いた餅でなく、達成できる目標を目標値にする。どう考えても、これは目標値があまりにも絵に描いた餅のようなので、考え直した方がいいと思う。言い過ぎた

かもしれないが。

#### (明石座長)

・非常に大事なご意見。国の目標値に合わせることは否定できないけれども、あまり絵に描いた餅になっては意味がないので、千葉県の実に見合った目標値の設定になっているかどうかという視点で検討した方が、次の5年後の策定の時にも参考になる。

#### (事務局)

・おっしゃるとおり。その中で、例えば、朝食を欠食する県民の割合の小学生、中学生については、なかなかゼロにするというのは難しいが、これはやはりゼロにしなければいけないと、みなさん願望として思っている。今2%ですから、達成しやすい近い目標でという議論もあるとは思いますが、1%でいいと言えないものがある。

・「県の農林水産物を購入したい」については、2次計画で80%という目標を立てた。それは達成したので、5%上げた。徐々に上げていく。

#### (明石座長)

・岡村さんの意見は大事なことだと思う。例えば、いじめ撲滅、ゼロを目指している。それは、数値目標としては間違っていない。問題は、ゼロにもっていくためには、どういう手続きがいるかというのが一番難しい。

・小学校5年生の朝食の欠食率2%をゼロにするのは非常に難しいが、どういう手だてをすればできるかという案を出せば、議論しやすい。基本的にはゼロ目標というのは良い。そこに行くまでの手続きを議論していく。

#### (渡邊氏)

・すごく難しいことだと思う。朝食には、きちんと揃っている朝食から、牛乳を飲んだだけとか、パン1つだけとか、いろいろなパターンがある。この朝食は、朝何か口に入れてもらえば、それだけでも食べないことよりも、ずいぶん違う。食べて欲しいことがみんなの望みで、健康づくりに欠かせない。

・国の目標を書いて、その手立てをみんなで考える、みんなで一緒にやっていきたいと思いますということが大事だと思う。

#### (古賀氏)

・現場の教員も栄養士も、ゼロ目標というのは非常に困難であると思っている。朝、親が起きてこない、用意されていないという家庭がある。自分で用意している子供も4年生ぐらいになると、少なからずいる。

・数値目標は、ゼロに近づければ、近づけるほど難しいと思う。

・家庭で朝食を摂る習慣のない親、必要性を理解していないという、最後の最後をゼロにするのは、すごく大変だろうと思う。

・子供たちにどういう朝ごはんを用意するか、ということも小学校のうちに指導すると良いと思う。

- ・小学5年生と中学2年生は、朝食を欠食する県民の割合があるが、高校生はどうか。
- ・朝食欠食が習慣化してしまうのが、どのあたりから始まるか、疑問に思う。もしかしたら、高校生ぐらいから跳ねあがってしまうかもしれない。
- ・高校では定時制以外は給食がないので、栄養教諭からの指導が届きにくいと思う。中学校まで栄養教諭を中心に行ってきた食育が、高校にどうつながっていくか、そこから先もちろんと役立てられているか、食育に関しても小中高の連携はすごく大事だと思う。

(明石座長)

- ・県の高校のデータはあるか。県立だけでもあるか。

(事務局)

- ・現在のところ、高等学校の生徒の朝食欠食についてのデータは、残念ながら持っていない。今後、研究していきたいと思う。

(明石座長)

- ・大事なデータなので、この5年間で出してくれるといい。
- ・定時制高校でも給食を廃止する傾向が強い。夜に給食があると非常に救いになる場合がある。
- ・鶴澤先生、小学校、中学校の欠食率、2%、4.5%から、ゼロを目指すことについてどうか。

(鶴澤氏)

- ・東総の小学校は、比較的、朝食を食べてくる子が多い。
- ・朝食欠食がないように、全校朝会の話、学級指導、学校だよりなどの中で、「早寝早起き朝ごはん」の話をするようにしている。

(明石座長)

- ・東京都の足立区が危機意識を持ち、小学校1年生をもった保護者全員に調査をした。朝ごはんを用意しない方が18%ある。その中で、目玉焼きを作れない方が1/3ぐらい、あとの2/3ぐらいは作るのが面倒、そういう方が増えつつある。
- ・ゼロ目標は間違っていないが、困難を抱える子供たちや家庭に対して、県としてどういうサポートができるかを検討していかないと難しいと思う。

(事務局)

- ・民間企業の目標設定では、実現の可能性が低い数値を目標としないと思う。目標値としては、実現可能性も考えなければいけない要素だが、批判的な、こうあるべしというところも考えて、設定しなければならないと思っている。
- ・全国数値との比較で、千葉県の前向きようを比較しましょう、理解しましょうというのも、第3次計画の目標の設定の仕方として考えている。岡村さんのご指摘のとおりだと思うが、批判的要素を強く入れ込んだような目標の数字となっているので、ご理解をいただきたいと思う。

## (大田氏)

- ・1点目、食育に関する事で、ガイドブックとかリーフレットについて触れられている点が多いが、今後の推進に当たって、より高い目標値に向かってどういった活動をしていくのか、具体的な手立ての一環として、リーフレットの見直し等をどのようにお考えなのか。
- ・2点目、計画の中に目標達成に対して携わる課というのを具体的に記入されると、どの課とどの課が提携し、どのような形で推進されていくのかが、第3者からも見やすくなるし、目標達成に向かって進まれる担当課の方にも刺激になると思うので、その点についてどうか。
- ・3点目、県内の農産物のブランディングや発信力に関して、今後どのような展開が想定されているのか。また、民間企業の力添えをいただくかと思うが、何か具体的に取り組んでいることがあれば教えてほしい。
- ・4点目、小中学生の朝食欠食についての数値について。中学生ぐらいになると、体型を気にして、女子も男子も食べない。食べないことに対して学校も容認しているように見える部分がある。給食を残すのは良くないから、手を付ける前に返ささいと言われると、「いただきます」をした後に、子どもたちは、ごはんを全部返す、おかずは一部しか食べない、野菜は嫌いだったら野菜は全部返して、肉だけ残すとか、そういった傾向が見受けられる。小学校も高学年になれば、そういう傾向。食べられる状況でも食べないのか、保護者が用意しないから食べないのか、全く状況が違う中で、同じ数値にのってしまおうと現状が見えないと思う。都市部と農村部でも違うと思う。千葉は広いので、比較する中でおそらく据える目標も違うと思う。目標数値の内容の精査に関して、現状どのような取組がされているのか。今後もし取組がされるようであれば、教えてほしい。
- ・質問5点目。「早寝早起き朝ごはん」のところ、早寝早起き朝ごはんに関しては、国民運動という認識を持って、日本PTAを先頭に事業に参加し、県P連としても協力をして進めている。こちら、朝ごはんを合言葉ととか、早寝早起き朝ごはんの取組というような書き方をしており、国民運動という認識ではない形で書かれていると思う。ここは、国民運動として推進していくのか、単に合言葉として掲げているだけなのか、だいぶ違うと思うので、県としてはどう取り組まれているか教えていただきたい。
- ・あと、もう1点、保護者の関心について、保護者側の意見を述べさせていただきたい。子どもの成長に必要なものに対して、保護者がきちんと関心を持っているかということ、関心を持っている親と、関心を持っていない親の差はとても大きいように感じている。私たちPTAも、関心のある親が比較的多く集まって運営をしている団体で、年に1回の研究大会では1,000人前後の人が集まる。そこでリーフレットを頂戴して、全員に配ることは可能なので、推進のお手伝いをしたい。推進に協力したいと考えているので、ぜひお声掛けをいただけたらと思う。

## (事務局)

- ・1点目、ガイドブックの見直しについて、2次計画では、「グー・パー食生活」のリーフレットにより推進してきた。3次計画においても、この「グー・パー食生活」については活用していく。内容はその都度見直しを行い、必要なものを盛り込んでいきたいと考えている。また、「グー・パー食生活」だけでなく、今回は朝食啓発のポスターを作成したが、その都度、新しいもの、必要なものを追加しながら啓発したいと考えている。
- ・2点目、計画の本体の中で関係各課がわかった方がいいのではないかとことだが、事務局

では、計画に基づいて関係各課の食育に関連する事業について整理をしていく。ただ、計画本体に関係各課の課名を載せるかどうかについては、持ち帰って検討したいと思う。

- ・3点目ブランディング、発信、民間との連携をどう展開していくか、民間の方々の協力をいただきながら少しでも多くの方の目に触れるように考えていきたいと思う。県のホームページでも発信に努める。

#### (事務局)

- ・朝食の欠食率について、県全体でデータを集計しており、地域ごとの数値は把握していないが、給食関係者、学校栄養職員、栄養教諭、市町村の給食担当者等の集まり、研修会、協議会、地区別の集まりもあるので、そういう機会を利用して、地域ごとの特色に応じた研修等を行い、食育の向上に努めたいと考えている。

#### (明石座長)

- ・私も個人的には、県全体のデータも欲しいが、例えば人口別のデータも今後とっていただけると、何が要因となっているか検討できる。
- ・栄養教諭の設置率が多いと欠食率が減るのか、学校給食の研究指定校にすると減るとか、食生活改善推進員など地域の方が頑張ると減るとか、食育推進計画を策定している市町村としてない市町村で欠食率に影響するのか、何かそういう要因を挙げていただけると議論が深まると思う。
- ・すぐには難しければ、そういう視点も含めて、数値を細分化してくれると助かると思う。

#### (渡邊氏)

- ・ガイドブックの見直しについては、具体的な意見があるのか。
- ・私が知っている中学校では、4点目のご質問である給食を残すことについて学校が容認していることはない。栄養教諭と学校栄養職員が、なぜ給食を食べなくてはいけないのかについて、子供たちにきちんと指導していけば、給食を残していいとはならない。全ての中学で、そのような状況ではないと理解している。

#### (古賀氏)

- ・大田さんからお話があった時に、残念ながら私は半分、うなずけるところがあった。私は小学校の栄養教諭だが、本校で中学校にも配送しており、中学校にも月1回程度、給食の様子を見に行くが、継続した指導が困難な場合もある。特に残菜率については、担任の教諭の力が非常に大きいと思う。中学校では、はじめから野菜をすべて残してしまう子がいる。同じ中学校でも、担任の先生が残菜はゼロを目指すということで、年間通してほとんど残菜はなかったと聞いている。担任の取組み方で、同じ学校でも、同じ地域でも大いに変わる。この食育推進計画の中に食品ロスがあるが、これには給食の残菜もある程度の割合で入っているかと思う。
- ・中学校の場合、授業時間の関係で給食時間が短い傾向がある。小学校では少なくとも45分程度確保されている。準備から片付けまでの時間が、中学校では30分くらいしかない場合がある。地域によっては5分間延ばしただけで残菜率が減ったということも聞いているので、給食時間の確保、それから担任の先生方のご指導というのが非常に大事だと思う。
- ・自校方式では栄養教諭の指導が比較的通りやすい。千葉県内、給食センター方式が多いところ

がある。一概に、給食センター方式がマイナスということではないと思うが、地域性による残菜率とか、栄養教諭が食に関する指導にどれだけ入っているか、という調査等により状況を踏まえた上で、具体的な策を講じるというのが大切だと思う。

・県全体で集計しているのに、地域ごとの朝食欠食率の結果が出ていないとの話だったが、おそらく全体集計を出されているということは地域ごとの数値が出ているかと思うので、地域の研修会等で話をされたり、指導されたりする機会があったら、そういった話をしていただけると、当事者意識をもっていただけたらと思う。

#### (事務局)

・「早寝早起き朝ごはん」については、教育庁内の担当課と調整したいと思う。

#### (明石座長)

・10年前に食育基本法が制定されたと同時に、「早寝早起き朝ごはん」は国民運動として行っているのに、ぜひ県もこれを受けてやっていただきたいと思う。

#### (鈴木千鶴子 氏)

・今回の計画では、成長段階の子供たちに目を向けること、子供を育てる親に意識啓発すること、そこを大事にしたいという思いが見える。それを担うのが私たち保育現場と痛感している。

・私たち保育の中では食育運動も積極的に行っている。食育として、クッキングをする、栽培をする、地域の人を巻き込む、何でもやるのは限界がある。食育は教育的活動をするだけでなく、体を作ることや情緒的な発達もある。

・初めて子育てする親や、子どもに対して意識のない家庭に対して、それを伝えていくのは私たち保育所だという思いがある。今年、県保協の研修として、食に関する子どもの体の機能について学ぶ。今回の第3次計画の中で出てきている口腔的な機能、保育所の役割を大事にしなければならない。

・県内保育所研修として、私たち保育士が何を大事にし、どういう役割を担っているか、ということ学び直そうとしている。

・私たちが、預かるお子さん、そのお子さんを育てている親たちに、食べること、生きること、それから子どもたちの情緒的な育ちを支えること、このあたりを発信したいと思っている。でも、保育現場は情報がないと思う。この数値的なデータであったり、リーフレットやガイドブックの存在であったり、改めて知ったような状態。もっと現場におろしていかないといけないと痛感している。

・市町村の食育推進計画がなかなかできないことについて、目標値としてあげている。もっと細やかに市町村や地域の人達に周知したら浸透しやすいと思う。計画ができたからOKではなく、これをどう浸透させていくかというところの努力を私たちが会議で評価していく、具体的に私たちが精査しながら、次にまた新しい計画が作られるという形になるといいなと思っている。

・9月の7、8日に、子育て支援のネットワークにおいて、全国セミナーが浦安で行われる。今回は千葉県の特産を保育園の給食に使ってもらいたいという思いがあって、ちば食育サポート企業の大網白里市の緑川商店さんのだしについて、ワークショップで紹介したい。また、千葉は海苔が特産。その海苔も発信していきたい。

(明石座長)

・全ての市町村の食育推進計画を策定する。あと25残っているが、どのような行動計画があるか。

(事務局)

・健康増進計画とも関連し、食育計画もどちらも作成していない市町村がある。そこは一体的に作るよう進めていく。それから、食育推進計画だけ作ってないところもあり、アプローチの仕方も変わっていく。また、大きな市町村、小さな市町村があり、人間的な問題もあるので、それぞれの市町村によってアプローチの方法を考えながら、行動計画も考えていきたい。

(鈴木千鶴子 氏)

・子どもの虐待や子どもの貧困などの社会的問題があり、食に関しても子どもの育ちや親子関係にずいぶん影響があると思う。喫緊の問題として、何か解決できる方法を市町村に指導、アドバイスをお願いしたい。

(西牟田氏)

・いろいろな視点でよくまとめられていると思う。食品ロスに対していろいろな取組がされているのは立派だと思うが、もう1点、まだ食べられる食べ物をどうするかは、国際的な視野という視点もあり、フードバンクやフードドライブなどの取組もあると思う。

・食事の摂り方、バランスの問題など、いろいろなことが指導されているのは素晴らしいことだと思うが、塩分の摂取に関してどのように指導がされているのか。例えば塩分摂取量に対する意識はどうか。まだまだ塩分摂取量が多いので、注意喚起があってもいいと思う。

(事務局)

・塩分の摂取については、健康増進計画で触れている。  
・食育計画と健康増進計画を両方作っていないような市町村に関しては、塩分摂取に触れた計画が作れると思っている。

(山倉氏)

・ポスターの下の方、黒い字のところ、通勤途中、通学途中と書いてあるが、どういうイメージなのか。

・計画の指標の「ゆっくりよく噛んで食べる県民の割合」があるが、出典が県政に関する世論調査となっているが、本来これは生活習慣に関するアンケート調査ではないかと思うがどうか。

(明石座長)

・ポスター「朝ごはん」ちゃんと食べた？のところの下の方で、「家でしっかり食べられなくても、通勤、通学途中で、簡単な食事をとることからはじめませんか」、この真意はなんでしょうか。

(事務局)

・朝食欠食が多い若い世代、20から30歳代を対象としたポスターである。大学や会社に貼っ

ていただくことを想定。自宅でごはんを作らないのであれば、できるところからやっていただくということ。大学生であれば、通学途中にコンビニなどに寄って、おにぎりを買って食べる。まずは朝、何か口に入れることからスタートしていただく、という意味で、こういった書き方をしている。

**(山倉氏)**

- ・どこで食べるのか。

**(事務局)**

・場所は特に想定していない。例えば、通学途中に、簡単な外食店もある。まずはどこかで買って、何かを口に入れていただくことからスタートしようと考えている。

**(明石座長)**

- ・ゆっくり噛んで食べる県民の割合の件に関してはどうか。

**(事務局)**

・県政に関する世論調査が、いち早く数字がとれる調査のため、出典としたが、最も早い世論調査でとれなければ、生活習慣に関するアンケート調査についても検討したい。

**(高橋氏)**

・ポスターの「通勤通学途中などで簡単な食事をとることからはじめてみませんか」を目にしたときに、非常に不自然さを感じた。また、朝食の欠食率の目標をゼロ%に置いていることを考え合わせたとき、朝食の内容はバランスのよい食事ではなくて、ただ食べることを目標にしていると感じた。

・先ほどの指標の話で、都市部・農村部など細かい数字は必要とは思いますが、朝食の欠食率に限らずすべてのことになってくるので、今の段階は再分化する前のものでなければ無理と感じている。

・塩分摂取に触れていないことは、非常に残念に思う。去年、私たち食生活改善協議会は、全国大会が福井県で開催され、研修してきた。福井県は昔から塩分がとても高かった。それは繊維産業が盛んで女性が昔から就労しており、簡単な食事を摂っていたため高かったそうだ。県全体で中食、外食産業に働きかけ、塩分を抑えていただいたために、県全体で塩分摂取量の減少という成果が出てきたという話を聞いたので、1つの参考にしていただきたい。

**(長谷川氏)**

・ポスターの「通勤、通学途中などで」に関して違和感があるということだが、千葉県栄養士会では、毎週日曜日、千葉日報に「現代食事考」を書いており、この中で、「とにかく家庭で食べられなければ、通勤途中に、駅の立ち喰いそば一杯でもいいから食べたほうがいいですよ」、と書き加えた。私も電車で通っていた頃、時間のない時など、駅の立ち喰いそば一杯でお昼を間に合わせるということがあった。この文章は理解できる。



(明石座長)

・いろいろな年代や職業形態によって違うと思うが、1つの案として、こうした形でお願いしたいということだと思う。

(須藤氏)

・そもそも、食育って何だろうとよく考える。このポスターを見ると、何でも食べればいいのか、とにかく口に入れましょうという印象を受けた。やはり農業者の立場から、食べ物で体と心が作られるので、何でもかんでも食べればいいのかというものでないと思う。

・千葉県には女性農業者ネットワークがあり、今メンバーが増えている。このネットワークは若い20代の農業者からベテランの農業者まで、女性がたくさん集っている。いろいろな農業者と関わることがあり、他の農業者の作ったものを食べることで、食に関心が湧くようになった。

・やはり食べておいしいもの、この方が作っている、工夫して作っている、そしてそれを食べたことで感動して、食に意識が向いていくということが多々ある。

・体験の受け入れをして、老若男女いろいろな方がいらっしゃるが、経験から食に関心を持たれることがあるので、指標の「農林漁業体験に参加したことがある県民の割合」がまだまだ千葉県は少ない。ここを努力して増やしていただくと、本当の意味での食育につながると思う。

・ちば県女性農業者ネットワークの中には、農業体験をもっとやりたいという方がたくさんいるので、ぜひ御活用いただいて、本当のおいしさ、野菜のおいしさに気付いていただけるような、体験をしていただきたい。

・いいものを食べないといい体ができないので、農場に行って、信頼できる農業者に会うことが一番の体を作る基本だと思う。ここを努力することが、先ほどの中学生の例や保護者の例を改善するには一番いいと思った。

・はじめようグー・パー食生活のリーフレットは、目を引くと思うが、ほんとにこれで食べる気持ちになるのかな、そうでないような気がする。もっと生産者の顔が見えたり、農場が見えたり、ここにおいしいものを作っている方がいるとか、ここに行ったら体験ができて、ほんとの食に出会えるとか、そういうパンフレットもご用意いただき、農場者の元に消費者や一般の方が行けるような仕組みを作っていただけたら、私たちの力も活かせると思った。

(明石座長)

・この計画の4ページに、農林水産業体験施設が535箇所あると書いてあり、びっくりした。こんなにあることを知っているだろうか。千葉県に535箇所の農林水産業体験施設があることを、ホームページを見ればわかるのか。それとも、どこかでパンフレットで紹介しているのか。非常に貴重なデータだと思うが。

(事務局)

・県のホームページで公表しております。

(明石座長)

・料金とか電話番号とか、掲載されているのか。

(事務局)

- ・連絡先の記載がある。

(明石座長)

- ・こういった体験ができるとか、全部載っているということか。そういうのがあると、行きやすい。

(事務局)

- ・県では、「グリーン・ブルーツーリズム in ちば」という冊子も出している。こういった冊子を活用しながら啓発しており、また県のホームページでも掲載している。なかなか皆様方に届かなくて申し訳ないが、地図付きで、地域ごとにこういった施設があるか掲載したものもあるので、後ほど参考にさせていただきたい。

(明石座長)

- ・実は最近、小学校の運動会で、若いお父さんやお母さんがキャンプのテントを張って見ている。千葉市あたりでは増えている。今、みんなきれいなキャンピングの施設をもっているということは、いいツールがあれば農業体験、漁業体験、キャンプに行けるような若い層が育ちつつある。ぜひ課を上げて、南房総や勝浦で体験できるような方向を検討してほしい。

(小松氏)

- ・夏休みに、一週間のキャンプを子どもたちと行った。子どもたちと一緒に野外炊事を通常のプログラムの時間よりも倍の時間を使ってやっている。子どもたちが米を研ぎ、薪で火を焚き、釜を乗せるという形でやっている。スタッフが準備した食事よりも、倍のお米の量を食べる。それはなぜかという、自分たちでやっているからというのと仲間と一緒にチームを組んでやっているから。うまく炊けなくても、みんなおいしい、おいしいと言って食べる。
- ・岩魚のつかみ取りをやる。子どもたちは必死に魚一匹捕まえる。なぜかという、その日の夕食にするから。とれなかった子どもにも用意はしてあるが、都市部の子どもたちが、丸々一匹塩焼きにした岩魚を、食べ方を知らない子どもには、食べ方を教えてあげると、歯の丈夫な子は頭からしっぽまですべて食べてしまう。残すことをほとんどしない。
- ・キャンプカウンセラーとキャンパーたちが会話をしながら食事をする。何が嫌い、何が好きだとか、今日一日の流れをフィードバックしたりとか。そういった食事には、楽しさがあると思う。
- ・みなさんの話を聞いていると、学校の給食の時間はすごく短くなっていたり、食事のときには黙って食べなさいとあったり。人と一緒に食事をすることはとても大切。この計画を見ていると楽しさが全然伝わってこないの、楽しい食事ができるような方針にしていただければ、キャッチフレーズのまんてん笑顔につながるのではないかと感じた。

(事務局)

- ・先ほど意見交換の中で、定時制高等学校の給食について、財政的な観点から廃止とあったが、このことについては、生徒の就労状況や社会的環境が、法制定の昭和31年当時と大きく変化してきていること、及び喫食率も年々低下してきていること等から、給食のあり方について検討し

ているところなので、御理解願いたい。

**(渡邊氏)**

- ・「千葉型食生活食事実践ガイドブック」の本編を作ったのは10年前。リーフレットは毎年更新しているが、本編は食事摂取基準2005を使っている。今は、食事摂取基準2015である。ぜひ改めたいと思っている。
- ・改める際は、楽しいということも前面に出して、わかりやすくしていきたい。
- ・塩分の件、新しい食品成分表が去年出た。惣菜の項目に、和食と洋食と中華の惣菜が載っている。和食の総菜は意外と塩分量が少ない。今までの栄養計算は材料で計算していたが、新しい成分表はできあがりて計算する栄養計算方法を記載し行っている。成分表に収載された惣菜は、実際のできあがりの塩分になっている。みなさんがそうめんやそば食べる时候につけ汁は残す。煮物の煮汁は残す。作るための調味料の塩分量の計算よりも、実際食べている量は少ない。ですから塩分の摂取量も今後、計算上も変わってくると思う。
- ・千葉は地域的にしょっぱい味付けの地域もあるので、啓蒙はやはり必要だと思う。
- ・いま企業も各家庭でも努力しているので、和食はしょっぱくないということが、前面に出てきているので、御理解いただけると嬉しい。

**(古賀氏)**

- ・喫食率が落ちているとか、たくさんの課題があつて定時制給食が廃止に向かっているということを知ったが、どうしても廃止になるのであれば、それに代わるフォローをしていただかないといけないと思う。学校栄養士会としては、定時制給食はなくしていただきたい。それが生徒たちの生きるすべとなつているところが多くあるので、なくしていただきたいというのが強い希望。難しいことと思うが、頑張りたいと思う。

**(明石座長)**

- ・事務局から、その他。

**(事務局)**

- ・意見照会の文書を配布したので、御意見があればファックスまたはメールで返信いただきたい。

**(明石座長)**

- ・以上で議事を終了。
- ・関係部局においては、各構成員の意見等を踏まえ、千葉県の食育推進に一層の努力をしていただければと思う。

**(4) 閉会**